

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部 局 名	産業経済部		
	課 名	耕地課		
	係 名	土地改良係		
	記 入 者		電話(内線)	182

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続		(2) 事務事業 の名称	市単農道整備事業				(3) 事業の 優先度	B	
(4) 総合計画での位置づけ					(6) 事業主体		市			
① 事業の区分	主要事業					(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	普通建設事業費(ハード事業)		
② 施策コード	31303		(総合計画掲載ページ)				会計区分	一般会計		
基本目標(政策)	3歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)				財源区分		市単独			
基本施策	3-1元気あふれる農業の振興(農業)				予算科目		款 6	項 1	目 8	
施策	③農村環境の保全				予算書上の		農道整備事業費			
施策内容	3農業生産基盤の整備				事業名称		(予算書 119 ページに掲載)			
(5) 事業期間		開始		年	月から	(8) 事務分類		自治事務		
	終了		年	月まで (		力年)	根拠法令			

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
農道整備要望箇所	舗装整備を行う事で、荷傷み等を防止するとにより、農産物の品質向上を図るとともに、農業の効率化、安定化に寄与する
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	
未舗装道路の整備	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境、市民ニーズ等) や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
生活道路として土木課が対応する舗装市道以外の農道部を対象とし、自治会からの要望箇所に対し、年次計画に基づき整備を行う	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映							
実施計画													
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）							
事業内容		27 年度		28 年度		29 年度		30 年度		31 年度			
(1) 事務事業費の コスト	事業費	測量調査委託料		739		4,331							
		農道舗装工事		21,945		43,308							
	合計		22,684		47,639								
	財源	国庫支出金 (千円)											
		県支出金 (千円)											
		地方債 (千円)											
		その他特定財源 (千円)											
		一般財源 (千円)		22,684		47,639							
		合計 (千円)		22,684		47,639							
補助・起債制度名													

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）				指標の名称	単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）										
指標名	農道整備延長	目標値	m		1,950	1,100	1,100	1,100		
		実績(見込)値		1,206						
		目標値								
		実績(見込)値								
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）										
指標名	農道整備延長	目標値	m		1,950	1,100	1,100	1,100		
		実績(見込)値		1,206						
		達成率		109.6 %	0.0 %					
		目標値								
		実績(見込)値								
		達成率	%	%						
5. 事業評価										
(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。 限られた予算の中で整備を施工するため、現場を精査し、内容を検討し、直営での測量・設計で対応した箇所もある										
(2) 項目別評価										
評価項目・客観的評価				理由						
必要性	事業の必要性	B	どちらとも言えない	住民からの要望は多いが、舗装の必要性については精査したうえで判断する必要がある						
妥当性	実施主体の妥当性	B	どちらとも言えない							
	手段の妥当性	B	どちらとも言えない	財政状況を鑑みて、直営での測量・設計で対応している路線もあり、対応できる範囲が限られる可能性がある						
効率性	コスト効率 人員効率	C	改善の余地がある	財政状況を鑑みて、直営での測量・設計で対応している路線もあり、人員効率はよくない						
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない							
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	整備された路線については、成果が得られたと判断できるが、要望量から判断すると、整備するまでの年数がかかり成果は低迷している						
進捗度	事業の進捗	B	どちらとも言えない	対象となった路線については一定の進捗度を得られるが、全体の要望量から判断すると進捗度を得られてはいない。						
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。 舗装することで管理及び環境はよくなるが、その分農業者以外の通行量が増加する可能性がある。 4m未満の農道は、拡幅分筆が必要なため、用地測量に多大な費用がかかる。										
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？ 要望に対応するためには、人員の確保が必須であり、舗装をする必要性、優先順位等、慎重に検証する必要がある。										
6. 事業の方向性判断										
評価主体		28年度以降の事業の方向性		評価理由・根拠						
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		拡充 (人・モノ・カネ等の拡充)		注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。						
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		拡充 (人・モノ・カネ等の拡充)		要望箇所が多いが早期な農道の整備をするため、予算を確保しながら効率的に進めていく必要がある。設計に至るまでの事務量も増えているため、人員面においても体制の強化を考慮する必要がある						
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う				上記評価のとおり。						